

Monthly Report

Vol.158 / 2019 JUN

マカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが知事を表敬訪問しました



左からセベツ・アリーナさん、村井嘉浩宮城県知事、マカロワ・マリアさん

本学が招聘し、ベラルーシ新体操チームを応援することを目的として、白石市・柴田町の東京オリンピック・パラリンピックホストタウン親善大使として活動しているマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが、6月11日(火)、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長、高橋副学長とともに県庁を訪れ、村井嘉浩宮城県知事を表敬訪問しました。はじめに知事から歓迎のご挨拶があり、「これまでの経験を生かして将来ある若者を指導されるだけでなく、地域の交流活動を通して、日本とベラルーシという異なる文化の国をつなぐ『架け橋』となっていきたいと思います。」と二人を激励するとともに、「日本とベラルーシ共和国の新体操競技のますますの発展と東京オリンピック出場を祈念いたします。」とのお言葉をいただきました。それに応えて、マカロワさんとセベツさんは、それぞれ自己紹介や抱負、ベラルーシ新体操チームへの応援のお願いなどについて、日本語で挨拶をしました。その後、知事から宮城県のマスコットキャラクターである「むすび丸」のぬいぐるみが贈呈され、とてもかわいいプレゼントに二人とも大喜びでした。

現在、二人は本学で学生の指導にあたるとともに、白石市・柴田町の東京2020オリンピック・パラリンピック・ホストタウン親善大使として、来年のオリンピックに向けて地域の学校などで体操の紹介や指導等を行って、ベラルーシ女子新体操チームの広報・応援活動を行っています。セベツさんは来年の8月まで滞在し、マカロワさんは今年のベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿が終わるまで滞在することになっています。今年、7月24日(水)から8月3日(土)までの日程で事前合宿が行われます。7月27日(土)には仙台大学で、28日(日)には白石市のホワイトキューブを会場として、公開演技会(どちらも13時開場、13時30分開演)が開催される予定です。多くの皆様のご来場をお待ちしています。

〈目次〉

・マカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが知事を表敬訪問しました	1
・学会：令和元年度新任教員発表会(第99回学術集会)・総会・新任教員を囲む懇親会を開催しました ・ダートフィッシュ・ソフトウェアを用いた分析発表を行いました	2
・仙台大学の先生・学生と一緒に、南蔵王の自然を楽しもう！ ・水泳部：第70回東北地区大学体育大会 男子総合優勝で連覇達成！	3
・上海体育学院女子サッカー部との国際交流を実施しました ・瀋陽師範大学 中国伝統スポーツ・文化体験プログラムを実施しました	4
・台東大学卒業式で、ダブルディグリー制度による仙台大学体育学部の学位取得者に学位記を授与 ・2020年東京オリンピックの出場を目指すパラオ共和国の柔道強化選手2名を激励	5
・柴田町から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました ・白石市から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました	6
・「留学生日本文化体験ツアーin会津若松市」を開催！！ ・体操競技部：南、五輪も夢じゃない/床で全日本チャンピオン	7
・サッカー部：横浜FCに内定した松尾佑介選手の内定会見を開催しました ・楽天生命パーク宮城にて第3回スポーツ施設見学会が開催されました	8
・「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会総会」及び「全国体育系大学学長・学部長会議総会」開催 ・「東京おもちゃショー2019」に出展	9
・南條充寿学科長がユアサ商事(株)の招きにより講演しました	10
・芝草通信 NO. 3 ・「高校スポーツの安全を守る」Vol.15	11 ・
	12

学生の活躍や、取り組みなどをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供して参ります。

本誌へのご意見・ご質問等がありましたら広報室までご一報ください。

仙台大学 広報室

直通 0224 - 55 - 1802

Email kouhou@sendai-u.ac.jp

学術会：令和元年度新任教員発表会(第99回学術集会)・総会・新任教員を囲む懇親会を開催しました

5月28日(火)16:00～からLC棟1階スクリーン前において「新任教員発表会(第99回学術集会)並びに総会」、及び管理研究棟2階大会議室において「新任教員を囲む懇親会」を開催しました。

「新任教員発表会」は、高橋 徹 学術会運営委員の司会により進行され、学術会会長である遠藤 保雄 学長の挨拶後、早速発表会が行われました。

今回の新任教員は、教授(高橋 仁 副学長)、准教授(荒木 貞義 教員)、講師(小勝 健司 教員、金 一坤 教員)、助手(馬目 知人 教員)の5名が、限られた時間の中で発表を行い、各教員の自己紹介を含め、研究歴・研究内容、業務内容等についてそれぞれ工夫がなされた発表及び質疑応答が行われました。

引き続き総会では、小松正子教授の議長のもと、学術会事務局より、平成30年度事業報告・収支決算(会計監査報告含む)並びに令和元年度事業計画(案)・収支予算(案)について説明があり、すべて承認されました。総会終了後、「新任教員を囲む懇親会」が行われ、朴澤泰治理事長・学事顧問、遠藤保雄学長をはじめ多くの出席を頂き、教員各位においては有意義な懇談が行われました。

なお、発表の前には5月から新体操・ダンス臨時コーチとして招聘されたベラルーシ国立体育・スポーツ学院のマカロア・マリア 教員とセベツェ・アリーナ 教員も挨拶しました。マカロワ教員は今回で2回目(2009年～2011年以来)の来日となります。

<報告：学術会運営委員会・事務局>



発表の様子

スポーツ情報マスメディア学科：ダートフィッシュ・ソフトウェアを用いた分析発表を行いました

6月12日(水)、スポーツ情報戦略論演習A(スポーツ情報マスメディア学科3年生・前期選択科目)の授業で、映像コーチング分析ソフトウェア「ダートフィッシュ」を活用したプレゼンテーションを行いました。本演習は、競技フィールド領域において情報を戦略的かつ効果的に活用するための考え方やスキルを身につけることを目的としており、本年度は23名が受講しています。

受講生は、投球フォーム(野球)、サーブの軌道(バレーボール)、空中姿勢(エアリアル(スキー))などそれぞれの専門競技における日頃の疑問に着目し、先週の授業時間までに分析した結果を発表しました。受講生の1人は発表の中で、「仮説と結果の相違など自分自身の中で新たな発見があり、今後さらに深く学んでいきたい」と述べてくれるなど意欲を見せていました。

この授業は次週から、スポーツコードを活用したゲームパフォーマンス分析に取り組みます。

※ダートフィッシュとは

スイスのダートフィッシュ社が開発し、映像を重ねる「サイマルカム(SimulCam)」と残像を示す「ストロモーション(StroMotion)」、2つの映像処理技術で特許を取得した世界で普及しているソフトウェアです。

<報告：スポーツ情報マスメディア学科>



講義の様子

仙台大学の先生・学生と一緒に、南蔵王の自然を楽しもう！ 南蔵王わんぱく・チャレンジキャンプの募集

仙台大学（野外運動研究室）では、地域の青少年の健全な育成のために、地元南蔵王の自然環境を活かしたサマーキャンプを実施しています。自然豊かなキャンプ場で、テント泊や野外炊事、山登りや沢遊びを体験してみませんか。高学年向けのキャンプでは、登山中山の中で一泊するという、他とはちょっと違った本格的キャンプです。野外活動の専門の先生や、元気で優しい体育大のお兄さんお姉さんが一緒に活動するので、キャンプが初めての人でも安心です。キャンプ・登山の専門的な道具はレンタルすることもできます。

「うちの子にはちょっと無理かも・・・」「そんな長い期間できるかな・・・」という心配がありましたら遠慮なくお問い合わせください。先着順となっております。お友達なども誘って、お早めにお申し込みください。

※本事業は、子どもゆめ基金の活動助成を受けております。そのため、安価な参加費で本格的なキャンプを体験することができるようになっています。

南蔵王わんぱくキャンプ2019

日程：8月6日（火）～9日（金）

対象学年：小学2年生～小学4年生

参加費：12,000円

場所：南蔵王野営場及び南蔵王山城

定員：35名（先着順）

内容：ナイトハイク、冒険ハイク、沢歩き、野外炊事、テント泊、お土産作り等

南蔵王チャレンジキャンプ2019

日程：8月17日（土）～23日（金）

対象学年：小学5年生～中学3年生

参加費：20,000円

場所：南蔵王野営場及び南蔵王山城

定員：35名（先着順）

内容：南蔵王縦走登山、野外炊事、テント泊、個人別活動、キャンプファイヤー等

お問い合わせ先

TEL/FAX 0224-55-1263

E-mail ms-okada@sendai-u.ac.jp

仙台大学野外運動研究室

（〒989-1693 宮城県柴田郡柴田町船岡南2-2-18 仙台大学岡田研究室内）



水泳部：第70回東北地区大学体育大会 男子総合優勝で連覇達成！

6月8日（土）および9日（日）、碓ヶ関屋内温水プールゆうえい館（青森県平川市）で開催されました『第70回東北地区大学体育大会』に於いて、本学水泳部が男子総合優勝、女子総合準優勝致しました。

男子は昨年に続く優勝となり連覇達成です。

今大会は今年加入の1年生が躍動してチームを盛り上げてくれました。男子では、1500mで幕田敏也（体育学科1年次）が、200m平泳ぎで武山直樹（体育学科1年次）が、400m自由形で反町賢太（運動栄養学科1年次）が、100m自由形で吉田歩夢（運動栄養学科1年次）がそれぞれ優勝し、女子では200m平泳ぎで佐々木柚那（体育学科1年次）が優勝するなどニューフェイスがしっかりと力を出してくれました。

また、男子200m個人メドレーでは、奥崎健太（体育学科3年次）が2分04秒36の大会新記録を樹立して優勝、女子100m・200m背泳ぎで石澤七海（体育学科4年次）が初優勝し、加えて生涯ベストタイムを9名が更新するなど、チーム全体で好成績を上げることができました。

女子は惜しくも総合優勝を逃しましたが、初日終了時点では一時首位につけるなど、昨年よりも少しずつ上位校との差が縮まりつつあるのも実感しています。

今大会の結果をきちんと振り返り、課題を解決し、次戦の北部学生選手権（利府）に臨みたいと思います。

<報告：水泳部>



記念写真

上海体育学院女子サッカー部との国際交流を実施しました



明仙フィールド川平にて記念写真



本学LC棟にて歓迎後、記念写真

5月26日（日）から6月5日（水）まで、上海体育学院女子サッカー部の学生20名と引率者3名が本学に来訪しました。

上海体育学院女子サッカー部は、中国国内の大会で第3位を獲得したことがある強豪チームです。今回の来訪期間中に、本学、明成高校、常盤木学園、八戸学院大学とそれぞれ国際交流ゲームを明仙フィールド川平で実施しました。また、剣道体験やトレーニング方法の講義受講、ベガルタ仙台の試合観戦、松島観光、魯迅の階段教室見学等、日本のならではの体験も行いました。今後とも上海体育学院との幅広い交際交流を行っていく予定です。

<報告：国際交流センター>



トレーニングセンターにて講義を受ける様子



剣道体験



ベガルタ仙台サッカー観戦

瀋陽師範大学 中国伝統スポーツ・文化体験プログラムを実施しました



本学LC棟にて歓迎後、記念写真



卓球交流後、記念写真

6月12日（水）から6月18日（火）まで、瀋陽師範大学の学生12名と引率者2名が中国伝統スポーツ・文化体験プログラムのため本学に来訪しました。今回のプログラムでは、剣道・空手・卓球等の実技や基本的な日本語の講義等を実施しました。また、本学授業の一環として、瀋陽師範大学の学生が、現代武道学科1年生約50名に対し、中国武術パフォーマンス演技を披露しました。演技終了後には、瀋陽師範大学の学生が、本学学生に中国武術について指導を行い、実りある学生間国際交流になりました。

<報告：国際交流センター>



中国武術体験



剣道体験



卓球交流

台東大学卒業式で、ダブルディグリー制度による仙台大学体育学部の学位取得者に学位記を授与

6月15日、朴澤理事長・学事顧問が台東大学卒業式に出席し、同大学からの留学生であった謝智陽さんおよび林姿婷さんに、仙台大学の学位記を授与しました。

卒業式では、卒業生は、男女とも、レンタルの同一式服を着用して式に臨み、各学科卒業代表以外に、成績優秀者、品行方正模範等の学生も表彰を受けておりました。表彰者が、被表彰者の学生が被る式帽を飾りリボンの場所を、右側から左側に手で移すことが、学位取得の証の由で、興味深い景色でした。



台東大学のHPに掲載された報道の日本語訳を転載します。

(台東大学HPより)

卒業の季節がやってきました。台東大学で本日108期生の卒業式が開催されました。今年は2名の学生が台東大学および日本仙台大学のダブルディグリーを取得されたことも注目となりました。

今年2名のダブルディグリーを取得した学生は、体育学科の謝智陽さんおよび運動競技学科の林姿婷さんでした。日本 仙台大学の理事長 朴澤泰治 先生がこの2名の学生の卒業証書を授与するためにわざわざ日本からお越しくださいました。仙台大学在学の2年間、林さんは、仙台大学においてスポーツマネジメントを専攻とし、謝さんは、コーチングについて学びました。



仙台大学朴澤泰治理事長より、今年卒業された2名の学生が、修学期間中に仙台大学の開学50周年国際イベントに迎えられ台湾原住民踊りを披露し、彩を添えて頂きましたと紹介がありました。理事長からは、2名の学生に卒業証書を授与するとともに、仙台大学からの祝福および今後のご活躍を期待するとの言葉を頂戴致しました。

運動競技学科の林さんは、「大学からの支援により仙台大学に修学する機会を得ることができて、感謝します。仙台大学で修学した2年間では沢山の収穫があり、学業面だけではなく、人との接することや問題解決力などを身につくことができました」と話していました。また、林さんは、在学中に規定課程を修め日本語2級検定試験にも合格しました。彼女は、「日本の文化を含め、自分が体験したことをみんなに伝えたい、それに、今回、仙台大学理事長より卒業証書を授与されたことを大変光栄に思う」と話しました。



村上蔵王町長と駐日パラオ共和国大使館マツタロウ大使が来学し、2020年東京オリンピックの出場を目指すパラオ共和国の柔道強化選手2名を激励

6月7日（金）、村上蔵王町長と駐日パラオ共和国大使館マツタロウ大使がともに来学し、2020年東京オリンピックの出場を目指すパラオ共和国の柔道強化選手2名の事前合宿で南條監督に指導を受けている様子などを視察されました。

トレーニングセンターでは、大使自らトレーニングマシンを体験し選手を激励し、短い滞在時間ではありましたが、柔道部による花道の出迎えや南條監督から選手へ仙台大学の柔道着をサプライズプレゼントなど大使はじめ選手とオリンピック出場を誓い合いました。

<報告：国際交流センター>



記念写真



トレーニングを体験する様子

本学が招聘したマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが柴田町から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました



6月10日(月)、新体操などの指導者としてベラルーシから本学に招聘しているマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが、朴澤理事長・学事顧問、遠藤学長とともに柴田町役場を訪れ、滝口町長から東京2020オリンピックのホストタウン親善大使の委嘱状を受け取りました。柴田町は、白石市とともにベラルーシ共和国のホストタウンとなっており、ベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿を受け入れています。現在、チームの演技中の写真や衣装、道具などを展示したパネル展を開催中です。滝口町長は「パネル展を町内3か所の生涯学習センター等で今後2か月間開催するので、これを機会に多くの町民の方々に足を運んでいただき、全員でベラルーシを応援し、来年のメダル獲得につなげていきたい」と挨拶され、二人も親善大使として協力していくことを約束していました。

本学が招聘したマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが白石市から東京オリンピックホストタウンの親善大使に委嘱されました



6月19日(水)新体操などの指導者としてベラルーシから本学に招聘しているマカロワ・マリアさんとセベツ・アリーナさんが、遠藤学長、高橋副学長とともに白石市役所を訪問、山田市長から東京2020オリンピックのホストタウン親善大使の委嘱状が手渡されました。白石市は、柴田町とともにベラルーシ共和国のホストタウンとなっており、ベラルーシ新体操ナショナルチームの事前合宿を受け入れています。

6月10日(月)には柴田町から同様の委嘱状が手渡されており、今後、2020東京オリンピックに向けて、ベラルーシ新体操チームのホストタウンとなっている白石市・柴田町のホストタウン運動の展開に大きな役割を果たすことが期待されています。

「留学生日本文化体験ツアーin会津若松市」を開催！！



鶴ヶ城前にて記念写真



ツアー中の様子

6月8日（土）に毎年恒例の留学生日本文化体験ツアーで福島県会津若松市に行ってきました。日本文化体験ツアーは留学生に日本文化の良さを実感してもらおうという趣旨のもと毎年行っており、今回は本格的なお城である鶴ヶ城の見学へ留学生12名、職員7名、学生ボランティア1名の総勢20名で会津若松市へ行ってきました。

会津若松市へ到着後、まずは昼食で会津若松市の名物であるソースカツ丼を全員で食べました。初めて食べる留学生が多かったのですが、みなさんソースカツ丼のおいしさに感動し完食していました。昼食後、鶴ヶ城天守閣、県指定重要文化財である茶室麟閣へと見学へ行きました。鶴ヶ城では、銃や甲冑などの展示物や、会津藩や白虎隊などに関する歴史資料があり、留学生は日本の歴史をしっかりと学んでいて興味を示していました。その後天守閣の一番上まで上り、飯盛山や会津若松の景色を留学生たちはとても楽しそうに見ていました。茶室麟閣では千利休の子が建設したといわれている茶室を見学した後、抹茶と和菓子を頂きました。店員さんに抹茶の飲み方を教わり、正しい作法で美味しくいただきました。

鶴ヶ城、茶室麟閣を見学した後、国指定名勝の御薬園へ行き、日本庭園を見学しました。御薬園は約150年前の戦いの傷跡が残っており、歴史を感じさせる庭園でした。庭園内を無料のボランティアガイドの方に説明をしていただき、留学生も真剣に聞き入っており、非常に貴重なものを見せていただきました。

今年度の日本文化体験ツアーは留学生にとってまたとない貴重な学びの機会になりました。また、今回はツアーに行く前日に1時間ほど幕末の会津戦争などの歴史背景を参加した留学生および本学学生ボランティアにレクチャーしたことで、当日の見学がより深く理解できたようです。留学生にはこれからも日本の良さをたくさん知ってほしいので、今後も日本の文化や歴史を学べる場を提供し、且つ本大学の学生との交流の場を増やしていけるように努力してまいります。

<報告：学生支援センター 櫻井一樹>

体操競技部：南、五輪も夢じゃない／床で全日本チャンピオン

本学体操陣がついに日本一。第73回全日本体操競技種目別選手権大会は6月23日（日）、群馬県高崎市の高崎アリーナで男女の決勝を行い、男子の床運動で南一輝（体育2年）が優勝を果たしました。これに伴い同選手の東京五輪への道も開けてきました。

前日の予選をトップとした南は決勝の演技も高度な宙返り連続の着地を次々とまとめるなど、15.033の高得点をマーク。同種目の大会7連覇を目指した白井健三選手（日体大大学院、3位）らを抑えての頂点です。南は床運動のスペシャリストだけに残念ながら世界選手権の代表入りこそ逃しましたが、種目別で東京五輪につながるワールドカップシリーズの2大会出場権を獲得するとともにナショナル強化指定選手に選ばれました。

本学勢はこのほか、同じ床運動で青木翔汰（体育3年）が4位にくい込む健闘を見せてくれました。体操競技部はこれらの勢いを来るインカレ（8月20～22日・山口市）にぶつけるつもりです。

<報告：体操競技部>



床運動で力強く華麗にまとめた南の演技

サッカー部：横浜FCに内定した松尾佑介選手の記者会見を開催しました

6月17日（月）LC棟1階にて横浜FCに内定しました松尾佑介選手の入団会見を開催しました。

松尾選手は「これから横浜FCという素晴らしいチームで成長させてもらえることに期待を抱いています。プロは結果が求められる世界だと思うので、自分の武器である1対1での勝負をもっと伸ばしていきたい、チームの力になれるように頑張りたいと思います」とコメントしました。

またJFA・Jリーグ特別指定選手として承認され、6月29日（土）に実施された横浜FC対ファジアーノ岡山戦でJリーグデビューをしました。

プロフィール

松尾佑介（YUSUKE MATSUO / MF）

生年月日：1997年7月23日（21歳）

身長/体重：170cm/65kg

出身地：埼玉県

チーム歴：

2004－2009 戸塚フットボールジュニアクラブ（川口市立戸塚東小学校）

2010－2012 浦和レッズU-15（さいたま市立桜木中学校）

2013－2015 浦和レッズU-18（さいたま市立大宮西高等学校）

2016－2019 仙台大学

選抜歴

2018 東北選抜（デンソーカップ）

2019 東北選抜（デンソーカップ）

特徴：

相手のDFの状況を見ながらスペースを見つけスピードに乗った緩急のあるドリブルでチャンスを作り出せる選手。

背番号：37番

その他：松尾佑介選手は2020シーズン横浜FCへの加入が内定しております。

* JFA・Jリーグ特別指定選手とは：

目的： サッカー選手として最も成長する年代に、種別や連盟の垣根を超え、「個人の能力に応じた環境」を提供することを目的とする。

概要： 全日本大学サッカー連盟、全国高等学校体育連盟サッカー部、またはJクラブ以外の大学運営（学校法人）のチームに所属する学生選手、もしくは日本クラブユースサッカー連盟の加盟チームの所属選手を対象に、JFAが認定した選手に限り所属チーム

登録のまま、Jリーグ等の試合に出場可能とする。



松尾佑介選手



内定会見時、サッカー部員から祝福を受けた後、記念写真

楽天生命パーク宮城にて第3回スポーツ施設見学会が開催されました



<写真1> 正面玄関にて集合写真



<写真2> 経営理念などマネジメントの講義



<写真3> 球場内を移動しながら天然芝生の生育を確認

6月23日（日）に楽天生命パーク宮城において「スポーツ施設管理概論」及び「スポーツターフ管理概論」の授業の補講として施設見学会が行われました。

この授業は、スポーツ施設管理の法的規制や基本事項を学ぶとともに、県内にあるスポーツ施設を実際に見学して知識修得を促進するものであり、昨年に仙台大学と楽天野球団との間で締結したアカデミックパートナーシップの一環として、楽天生命パーク宮城の見学会は3回目の開催となりました。

担当の小島文雄体育施設管理コンサルタント兼非常勤講師の引率の下、41名の学生が参加いたしました。

冒頭、株式会社楽天野球団ボールパークエンターテイメント部 松本 有 部長より、楽天野球団の戦略、スタジアムのコンセプト、安全管理体制等に関する講義を受け、その後球場や管理施設を見学し、実際に使用している天然芝生やグラウンド整備の機械や、グラウンドの芝生の生育状態を確認しました。

参加した学生からは「今回初めて見学会に参加できて、理解が深まり、とても感謝しています。特に普段見ることが出来ない芝生の管理やサブエアーシステム（芝生の床に暖房した空気を送風したり雨水を吸引したりするシステム）を学ぶことができたことは大変貴重な体験でした。」と感謝の声が多く上がっていました。

この見学会は今秋に第四回目を開催する予定となっております。

「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会総会」及び「全国体育系大学学長・学部長会議総会」開催（幹事校：大阪体育大学） —2020東京オリ・パラを来年に控えた体育系大学の課題と展望を論議—

5月23日、大阪体育大学を幹事校として「一般社団法人全国体育スポーツ系大学協議会総会」（会長：日本体育大学 松浪健四郎理事長）が開催され、朴澤理事長・学事顧問と遠藤保雄学長が出席されました。

この協議会は体育系大学の経営者等で構成され、教学組織の長で構成される「全国体育系大学学長・学部長会議」とともに体育系大学における教育研究並びに管理運営等に関する事項について協議し、相互の連絡・理解・親睦を図り、体育スポーツ・健康科学の向上発展に寄与することを目的に活動しています。

総会では、大学無償化・UNIVAS・来年に迫った2020東京オリ・パラなど、それぞれ重要な項目に関して活発な意見交換がなされました。特に協議会会長の松波健四郎日本体育大学理事長は、UNIVASから参加した池田専務理事・仙台大学教授によるUNIVAS創立後の大学スポーツ振興に向けた取組の状況の説明に対して、予算措置を含めた具体的実施内容、加入メリットの明確化その他、事前の協議会理事会で示された各種意見を集約した要望に言及するなど、協議会の立場を踏まえた挨拶を行いました。

翌5月24日に「全国体育系大学学長・学部長会議総会」（会長：国際武道大学 高見令英学長）が開催され、遠藤保雄学長が参加されました。

先ず、2019年秋頃 UNIVASに関連した講演会等を予定する、また、「全国体育系大学学長会・学部長会」と「全国体育スポーツ系大学協議会」との関わりを検討するプロジェクトチームの設置の検討を進めるという事業計画が採択されました。

次に、今回の会合では特に、UNIVASに関する意見交換が行われ、出席する全大学から各種の意見が提起されました。その主要なやり取りは、「UNIVASに加盟することで安全安心や文武両道をめざす良いきっかけとなる」

「UNIVASに加盟することで、地方にある体育大学の存在価値を高めたい」「米国のUNIVASのイメージが強すぎるので日本の実情にあった中味にしていくべき」「強化指定クラブを作り、学生募集に効果的に働くことを期待する」等多様な意見が出され、日本大学スポーツの振興に果たすべきUNIVASの役割として、どこに焦点を置いて取り組むべきなのか、今後の展望と課題が浮き彫りになりました。

本学から出席した遠藤学長は、「米国の例を見てもUNIVASは100年の計、競技スポーツ・レクリエーションスポーツ・それ以外の学生へのスポーツ習熟、大学体育の必修の重要性など多様な視点で取り組むべきではないか」とコメントするなど、各大学のUNIVASに対する率直な意見交換の場になったようです。

今回は東京オリンピック・パラリンピック直前の2020年5月28日（木）～29日（金）に国士館大学を幹事校として開催される予定で、国をあげて取り組むスポーツの祭典へ体育大学全体として大きな貢献が期待されます。



「東京おもちゃショー2019」に出展

6月13日（木）～16日（日）（一般公開日は15日と16日）に東京都江東区有明の東京ビックサイトにおいて、東京おもちゃショー2019が開催されました。これは国内外のおもちゃを一同に集めた展示会になっており、一般公開日の来場者数は2日間で135,245人でした。その中で子ども文化の発展に賛同する企業や団体を集めた「キッズライフゾーン」に、今回で7回目となる本学のブースを出展しました。

今年はニュースポーツであるバグジーを展示しました。バグジーはあまり知られていないのか、本学のブースを訪れた家族連れや海外の方は、興味津々に挑戦していました。穴に入れるという難しさに首を傾げる場面もありましたが学生スタッフがコツを教えると、小さな子どもたちも何度もブースに足を運ぶなど、気軽に楽しめるバグジーは好評だったようです。学生スタッフたちの活躍により2日間で約2500人もの方々にご満喫いただくことができました。

<報告：学生支援室 須田千晶>



南條充寿学科長がユアサ商事（株）の招きにより講演しました 「オリンピックから見る日本競技スポーツ界の現状と課題」



6月13日（木）ユアサ商事株式会社の招きにより、南條充寿・現代武道学科長（仙台大学柔道部総監督・仙台大学柔道塾長・前全日本柔道女子監督）は仙台国際ホテルにて「オリンピックから見る日本競技スポーツ界の現状と課題」と題した講演を行い、約60名の方が熱心に耳を傾けました。

最初に南條学科長は「1964年の東京オリンピックでオリンピックの正式な競技となった柔道は、人間教育と競技力向上を目的に日本で生まれたスポーツとして、より輝きの良いメダルをとることが至上命令です。日本の柔道界がさまざまな不祥事を経て困窮していた時に、恩師である亡くなられた斎藤先生から自分が全日本柔道女子監督に抜擢されて以来、ともかく選手たちにオリンピックでメダルを取らせることだけ大目標として必死に取り組んできました。

みなさんはスポーツに対して華やかなイメージを持つでしょうが、実は学校体育と企業集団に支えられています。国がオリンピック選手への経済的な支援をはじめとした手厚い保護を確立している他国の例と違い、Team Japanとしてオリンピックの選手に選ばれたとしても、各選手が各企業に所属しているという日本独特の難しさがあり、柔道の現場でコーチングするよりもむしろ、強化選手の選考及び強化計画の立案・実践・評価・海外の現状の情報収集・所属との関係といった選手たちのマネージングをすることがメイン業務でした」と話しました。

3年前リオデジャネイロオリンピックでは、女子金メダルがないまま迎えた70kg級の田知本遥選手が14名のうち、ただ一人、これまでオリンピックや世界選手権大会でのメダル獲得経験がなく、強豪選手が1番多く存在する階級にいながら、一戦一戦勝ち上がり、最後に見事、日本中が待望していた金メダルを手中におさめるとい劇的なドラマがあったのは記憶に新しいところですが、その直後、南條学科長が最初に田知本選手に向けた言葉は「おめでとう」でも「よくやった」でもなく「あまり調子に乗らぬよう、ここからがお前の評価のスタートだぞ!」と、田知本選手もまさかの予想外の一言だったそうで、南條学科長のなんとユーモラスなお人柄に、会場は笑いの渦に包まれました。

次に、来年に迫った2020東京オリンピックの課題として、南條学科長は、柔道人口が減っている現実に警鐘を鳴らし、長い目で見た柔道の魅力を発信し、柔道をしたと思うこどもたちをいかに増やしていくかが大切と語りました。今、最も人気のある競技はバドミントンや卓球だそうです。谷亮子選手に代表される誰もが憧れる、目標とされる選手がいない危機感。新聞・テレビといったマスコミの方々と連携し、スター選手の発掘・育成の必要性を説き、保護者が「柔道は危険だからだめ」と子供たちに勧めなくなった現実を指摘し、柔道界のイメージアップが急務であると話しました。

今後、世界で戦うためには、日本人の強みである「高い技術力」をさらに強化しTeam Japanとしてサポートメンバーの充実、ナショナルトレーニングセンターの活用といった戦略が必要だそうです。

また、指導者の待遇について南條学科長は、諸外国との違いについて触れ「仙台大学の教員でありながら監督に就いたらほとんど大学にいないことができず、多大なご迷惑をおかけするであろうことは承知で“全力を出してやってきなさい”と力強く背中を押してくださった朴澤泰治理事長・学事顧問（当時は理事長兼学長）に、心からお礼申し上げます」と謝意をのべました。

講演の主催者でユアサ商事株式会社・建機本部長の居木哲也氏は「南條先生のご経験は、弊社における人材育成に通じる大変興味深い示唆にあふれていました。新入社員をどう育てていくか？は大きな課題なので、今日教えていただいたことを社内全体で広めていきたいです。」とおっしゃっていました。

2020東京オリンピック・パラリンピックに向け、またその先を見据え、柔道をはじめとした次世代のオリンピック選手輩出および人材育成に、仙台大学はますます真摯にとりくんでいくことを伝える貴重な場となりました。

天然芝生とは

【天然芝生】とは、『丈が短く細かい葉を密生させる草が集まり、ある程度まとまった広がりでも地面を覆っている部分』（浅野義人・河東正広2005「芝生」NHK出版）を指します。または、『イネ科植物およびその他の繊細な植物で被覆され、それらの多量の根、あるいはほふく茎で満たされた土壌の表層部分』（佐藤節郎2018「芝草管理技術者研修テキスト第14回3級第2章芝草入門1. 芝生と芝草の定義」日本芝草研究開発機構）と定義されます。【天然芝地】は同義語であるとされており、広義にはグラウンドカバーの一つと言えるでしょう。庭園や公園、サッカーなどの球技場、そしてゴルフ場には、緑のじゅうたんを敷き詰めたような芝生が欠かせないものとなっています。

【天然芝生】の英語表記には、主にturf（ターフ）とlawn（ローン）が充てられ、Turfはlawnより緻密に管理された芝生を指すことが多いようです。芝生を構成する植物である芝草には、turf grassとlawn grassが充てられます。

【天然芝生】は、ヒツジやウシ、ウマ等の家畜の放牧地に生える草が起源となっています。そんな中で生き残ることができるのは、生長点が地際の低い位置にあり、また地面や地中を伸びる匍匐茎を持つ植物だけです。長く放牧が続いた場所では、そうした特性を持つイネ科植物だけが生き残り、背丈の低い密な群落が出来上がり、これが【天然芝生】の原形です。人間が刈り込みを行って、家畜が食べる代わりにしているのが【天然芝生】と言うわけです。

1. 噴水周り天然芝生≪Aブロック（正門隣）、Bブロック（三体前）、Cブロック（四体前）≫
 ≪6月に行なった管理≫ (1) 乗用3連ロータリーモアによる草刈 (Putting Greenを含む)



〈写真1〉 Aブロック草刈り後開放



〈写真2〉 Bブロック草刈り後開放



〈写真3〉Cブロック草刈り後開放



〈写真4〉匍匐茎伸長状況

2. 第二グラウンド、天然芝生ラグビー・アメリカンフットボール場

維持管理実習

安全管理の注意事項を説明した後で3ゾーンに分けたところに3班に分けた学生が20分ごとに移動してそれぞれの機械などに乗車して操作の実習

Aゾーン（高橋）：乗用3連リールモア操作

Bゾーン（八巻）：手引きリールモア10台操作及びポットに播種作業

Cゾーン（野口）：乗用3連ロータリーモア操作

全体（小島）：総括・進行・安全管理見回り

- <6月に行なった管理>
- (1) 乗用3連ロータリーモアによる草刈, 3回
 - (2) 乗用3連リールモアによる草刈, 2回/週
 - (3) 散水: スミレインの孔明ホース (50mm×100m)
 - (4) 手引きスプレッダーによる肥料散布
 - (5) 除草ホークを使用して人力による雑草抜根



<写真5> 乗用3連リールモア草刈り機操作
後方にロータリーモアグループ
最後方に手引き式リールモアグループ



<写真6>手引き式リールモア (10台) による実習



<写真7>乗用3連ロータリーモア草刈り機操作



<写真8>ポットに寒地型種を播種して生育を観察

川平キャンパスAT・S&CLレポート

「高校スポーツの安全を守る」Vol. 15

担当：浅野 勝成 助手

スイカをモチーフにした氷菓がコンビニに並び始める初夏の時期、肌で感じる暑さ以上の熱い気持ちがぶつかりあった戦いが繰り広げられました。高校総体宮城県大会が5月末から6月初めに開催され、トレーニング指導を担当させて頂いている5つの部活動が頂点を目指して戦いました。

過去2年間に積み上げてきた成果を存分に発揮する場で、負ければ引退する選手も。それだけに3年生がこの大会に掛ける想いはとてつもなく強いです。ですが、競技スポーツとは酷なものです。

東北大会を目指して励んできた投てき選手、数センチの差で出場を逃してしまい引退となりました。ベスト4入りを目指した男子バレーボール部は準々決勝にてフルセットの末、惜しくも敗れました。一方で、昨年よりも順位を上げてきた女子サッカー部、東北大会出場者数を増やした陸上部長距離ブロック、そして3年ぶりに全国への切符を手にした女子バスケットボール部。涙を吞んだ者もいれば、歓喜に沸いた者も。

大会が終われば次への準備がすぐ始まります。優勝を決めた日の翌朝6時半からウエイトトレーニングに取り組んで全国という舞台で更なる飛躍を目指す選手達もいれば、冬の大会でリベンジを果たすべくスタッフミーティングをすぐに行いたいという顧問の先生方も。悔しさを糧に、喜びをバネに、それぞれの部活動が次のステージに向けて進んでいます。

ストレングスコーチとして改めて感じたことは、高校生が競技スポーツに打ち込める期間が約2年と非常に短いということ。最高のパフォーマンスを発揮するには、質の高い競技練習を短い期間で繰り返し行うのみです。それには怪我に負けない強い身体が必要であり、強靱な身体の構築には日頃の適切なトレーニングはやはり欠かすことは出来ません。

今大会では喜びと悔しさが入り混じっていますが、今後は選手達の喜びの数を増やすべく、より質の高いサポートを施していきます。

次回は明成フェスティバルについて (担当：白坂)